



北海道における国際会議等 誘致の取組と現況について

2023年(令和5年)7月26日

北海道



1 国際会議等の北海道開催の推進

北海道では、2008年(平成20年)に開催された**北海道洞爺湖サミット**を契機に、**国際会議等の誘致を強化**。

これまでの本道における**国際会議等の開催**で培った**北海道の知名度やノウハウ**、**官民協働の機運を活かし**、**積極的に国際会議の誘致に取り組む**。

世界が注目する大規模国際会議はもとより、本道の個性を活かした様々な国際会議等を開催することにより、**北海道ブランドをより戦略的かつ効果的に世界に発信**

『北海道の魅力や強みを活かした海外展開』

食や自然・環境など本道の強み・特性を活かしたMICEの誘致促進
(北海道グローバル戦略 R3.12改訂)

『新しい旅行スタイルの推進』

MICE・IR など新たなインバウンド等の取込方策の検討
(北海道観光のくにづくり行動計画 R3.11改訂)

北海道における国際会議 開催件数の推移と全国順位

年度	件数	順位
2017	119	9
2018	116	10
2019	115	9
2020	3	13
2021	0	—

(日本政府観光局(JNTO)「国際会議統計」)

北海道洞爺湖サミット以降における主な政府系国際会議

2009年5月	第5回	日本・太平洋諸島フォーラム首脳会議(外務省)	【占冠村】
2010年5月	第12回	日中韓三カ国環境大臣会合(環境省)	【千歳市・苫小牧市】
2010年6月		日本APEC貿易担当大臣会合(外務省、経済産業省)	【札幌市】
2013年11月	第13回	日中韓特許庁長官会合(特許庁)	【札幌市】
2015年9月	第7回	日ASEAN防衛当局次官級会合(防衛省)	【札幌市】
2017年12月		ASEAN+3財務大臣・中央銀行総裁代理会議(財務省)	【旭川市】
2019年10月		G20観光大臣会合(観光庁)	【倶知安町】
2023年4月		G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合(環境省、経済産業省)	【札幌市】
2023年7月		日ASEAN次官級交通政策会合(国土交通省)	【札幌市】

2 会議等誘致に向けた推進体制



北海道国際会議等誘致推進会議

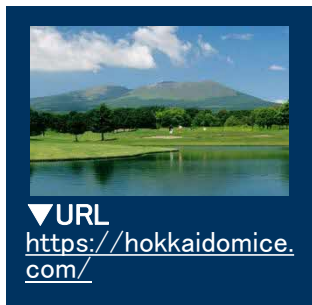
オール北海道で国際会議等の誘致に取り組んでいくために立ち上げた官民協働組織であり、各構成員が持つ組織の機能を活かしながら相互に連携し、**誘致に向けた情報の収集や共有、要請活動、情報発信などを行う。**

北海道MICE誘致推進協議会

北海道洞爺湖サミットで培われたノウハウと協議会構成都市のネットワークを最大限に活用して「**北のおもてなし**」で、**魅力あふれる印象深いMICEの開催をサポート。**

【構成団体】

北海道／(公社)北海道観光振興機構、(公財)札幌国際プラザ、(一社)旭川観光コンベンション協会、函館市／(一社)函館国際観光コンベンション協会、釧路市／(一社)釧路観光コンベンション協会、北見市／(一社)北見市観光協会、帯広市／(一社)帯広観光コンベンション協会、(一社)登別国際観光コンベンション協会、苫小牧市／(一社)苫小牧観光協会



学会や会議、大会等コンベンション開催への支援 (北海道観光振興機構及び北海道)

■助成の対象となるコンベンション

- ・2日間以上にわたって開催されるコンベンション(学会、会議、大会等)
- ・北海道外(外国を含む。)からの参加者が全体の2分の1以上
- ・参加者が100人以上いること、国際会議は、参加者のうち20人以上が外国からの参加者
ただし、オンライン参加者、講演会等の一般参加者は除く
- ・道内広域に経済効果が見込まれるエクスカージョン等に繋がる取組が計画されているもの
- ・開催される市町村またはコンベンションビューロー等から助成金が交付されるもの

種類	参加者数	助成限度額
国際的な コンベン ション	全体参加者 100人以上 かつ外国参加者 20人以上	100万円
	全体参加者 200人以上 かつ外国参加者 35人以上	200万円
	全体参加者 300人以上 かつ外国参加者 50人以上	300万円

※ 札幌市以外の市町村で開催されるコンベンションは、エクスカージョンに対して最大20万円の助成(道独自加算)

※ 主催者が国または地方公共団体のもの、営利又は収益を目的としたもの等は助成の対象となりませんのでご注意ください。

▼詳しくは北海道のHPをご確認ください。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/370convention/convention.htm>

3 北海道の優位性



Steak



Melon



SeaFood



Ski



Hotspring



Night View

安全・安心の食

新鮮な食、美食の宝庫

食

観光
レジャー

豊富な観光資源

風光明媚な景観、多彩な温泉、様々な体験メニューが楽しめるアウトドア等

世界に誇る 北海道の財産

自然

豊かな自然環境と再生可能エネルギー



オトノルイ風力発電所



ソーラーパネル

季節によって多彩な表情を見せる広大な大地や国内随一の再エネポテンシャル等を活かした
ゼロカーボン北海道(※)の取組

※2050年までに道内の温室効果ガス排出量を実質ゼロとする

	7月	8月	9月
札幌	21.1℃	22.3℃	18.6℃
東京	25.7℃	26.9℃	23.3℃

過ごしやすい夏
～30年間の月別
平均気温～

種別	道の導入ポテンシャル
風力発電	全国1位
太陽光発電	全国1位
中小水力発電	全国1位
地熱発電	全国3位

「再生可能エネルギー情報提供システム(REPOS)」(環境省)による

4 歴史・文化の魅力発信



ウポポイ民族共生象徴空間

北海道白老町にオープン
(2020年7月)



提供(公財)アイヌ民族文化財団

- ◆アイヌの歴史・文化を学び伝えるためのナショナルセンター。開業から直近(2023.6.30現在)までの間で約87.4万人が来場。
- ◆屋外の環境を活かした体験プログラムの設定や、ウェブでウポポイの様子を楽しめるバーチャルウポポイの開設をはじめ、本年度は、ウポポイの紹介動画を多言語に編集し、国外向けに発信するほか、インバウンドに特化した動画やHPを作成。



イメージ



【ジオパーク】

- ・白滝ジオパーク(遠軽町)
- ・洞爺湖有珠山ジオパーク(伊達市、壮瞥町、洞爺湖町、豊浦町)



洞爺湖の大岩

北海道・北東北の縄文遺跡群

世界文化遺産に登録
(2021年7月)



- ◆北海道・北東北の縄文遺跡群(北海道、青森県、岩手県及び秋田県)は、豊かな自然の恵みを受けながら1万円以上にわたり採集・漁労・狩猟により定住した縄文時代の人々の生活と精神文化を今に伝える貴重な文化遺産。



【日本遺産】

- ・カムイとともに生きる上川アイヌ
～大雪山のふところに伝承される神々の世界～
(上川町、旭川市、富良野市、上富良野町、愛別町、比布町、当麻町、東川町、上土幌町、鹿追町、土幌町、新得町)



5 国際会議等の開催環境 ～ 主なコンベンション施設



札幌



◆ 札幌コンベンションセンター

- 主要施設
 - ・大ホール：スクール1,200人、シアター2,500人
 - ・中ホール：スクール238人、シアター600人
 - ・特別会議場：スクール252人、シアター700人
- 主な開催実績
 - ・APEC貿易担当大臣会合(2010年)
 - ・第22回真空に関する国際会議(2022年)

札幌 (検討中)



◆ (仮称)新MICE施設整備事業

- 整備場所：市営地下鉄中島公園駅周辺地区
- 施設概要：MICE施設とホテルとの一体的な整備

旭川



◆ 旭川市大雪クリスタルホール

- 主要施設
 - ・大会議室：スクール180人、シアター300人
 - ・レセプション室：スクール90人、シアター150人、立食100人

北見



◆ 北見芸術文化ホール (きた・アート21)

- 主要施設
 - ・中ホール：シアター420人

函館



◆ 函館アリーナ

- 主要施設
 - ・メインアリーナ：スクール2,120人、シアター5,000人
 - ・サブアリーナ：スクール208人、シアター1,044人
- ・武道館、多目的会議室

帯広



◆ とかちプラザ

- 主要施設
 - ・大集会室：スクール192人、シアター280人
 - ・レインボーホール：シアター350人
- 主な開催実績
 - ・第1回G8水と衛生に関する専門家会合(2008年)
 - ・食と環境・国際フォーラム2013(2013年)

釧路



◆ 釧路市観光国際交流センター

- 主要施設
 - ・大ホール：スクール1,200人、シアター1,500人
 - ・視聴覚室：スクール63人、シアター100人
- 主な開催実績
 - ・ラムサール条約締結国会議(2013年)
 - ・東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ(2015年)

その他地域の施設・開催実績

- ◆ ザ・ウィンザーホテル洞爺(洞爺湖町)
 - ・北海道洞爺湖サミット(2008年)
 - ・第8回日中韓賢人会議(2013年)
- ◆ 星野リゾートトマム(占冠村)
 - ・第5回太平洋・島サミット(2009年)
- ◆ ニセコHANAZONOリゾート(倶知安町)
 - ・G20観光大臣会合(2019年)

6 国際会議等の開催環境 ～ 北海道とのアクセス



国際航空路線

道内空港(新千歳・函館・旭川)発着の国際定期航空路線は8路線、5ヶ国・地域、6都市



R5.7.1現在北海道調べ

北海道新幹線

東京⇄新函館北斗間は最短で3時間57分

新幹線札幌駅デザイン案(外観イメージ:南側近景)
※JR北海道R4.3.16プレスリリース資料より



- 「新函館北斗・札幌」間の約212kmは、令和12年度末(2030年度末)の開業を目指す。
- JR北海道は、時速320kmでの走行、札幌開業時に東京・札幌間4時間半を目指すと発表。

7 道内における国際会議の取組事例① 都市部(札幌市)



「G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合」の事例

- 日程 2023年4月15日(土)、16日(日)
- 場所 札幌プリンスホテル
- 参加国・招待国 カナダ、EU、フランス、ドイツ、イタリア、日本、英国、米国、インド、インドネシア、UAEほか招待機関
- 参加者数 650人
- 結果概要
 - ・経済・社会、産業構造をクリーンエネルギー中心に移行させ、炭素中立、循環経済、自然再興を統合的に実現するため、経済社会システム全体の変革であるグリーントランスフォーメーション(GX)のグローバルな推進等について議論。
 - ・会合では、西村康稔経済産業大臣と西村明宏環境大臣が共同議長を務め、共同声明とその附属文書を採択。



道と札幌市で連携し、機運醸成、おもてなしなど地元関連事業で開催をサポート!

開催までの流れ

- 道と札幌市で連携し、約3ヶ月で「実行委員会の立ち上げ」、「事業計画、予算計画の策定」を行い、1月から機運醸成事業を開始。



- 9/中旬 札幌市での開催決定
- 10/中旬 市が準備組織を立ち上げ(翌月、道職員5名を派遣。計17名体制に)
- 12/ 1 官民からなる実行委員会を立ち上げ(会長:市長、顧問:知事)
- 12/中旬 事業計画、予算を決定(総事業費1億、道、市は補正予算)
- 1月～ 地下街での柱巻き広告、シンポジウムなど機運醸成事業開始

本体会合と地元関連事業

- 道民、市民の当事者意識や参加感を高めるため、会合テーマに合わせた市民参加型イベントを開催。
- 道、札幌の魅力をもっとPRするため、地元主催レセプションやエキスカーション等を実施

地元主催レセプション	環境広場 ほっかいどう2023(1日目) [札幌ドーム]	環境広場 ほっかいどう2023 (2日目) [札幌ドーム]	エキスカーション [モエレ沼公園、ウポポイ等]
	大臣会合(1日目) [札幌プリンスホテル]	政府主催レセプション [パークホテル]	
[京王プラザホテル札幌]			記者会見 [大倉山等]

8 道内における国際会議の取組事例② 地方部(紋別市)



「北方圏国際シンポジウム」の事例

- テーマ 「オホーツク海と流氷」
- 参加者 様々な専門分野における国内外の研究者等
- 開催実績 1986年以降37回開催

【直近の開催例】

- 日程 2023年2月19日(日)～24日(金)
- 場所 紋別市文化会館、紋別市立博物館、紋別市民会館ほか
- 主催等 (主催)紋別市 (共催)北海道大学 (主管)実行委員会
- 参加者数 延べ人数1,814名
- 結果概要 「オホーツク海と流氷」をテーマに、物理、工学、生物などの幅広い分野にわたり、研究発表が行われたほか、市民向けの公開講座などが開催。



開催の経緯

- かつて紋別市にあった「北海道大学低温科学研究所附属流氷研究施設」の開設20周年記念行事として1986年にスタート。
- 翌年、有志が実行委員会を立ち上げ2回目を開催。3年目からは紋別市の主催となり、その後毎年開催。
- 開会式は「流氷の日」である2月第3日曜日に行われ、著名人による特別講演、研究者向けの学術研究発表に加え、市民向けの公開講座や子ども流氷シンポジウムなどを開催。

30年以上続いている理由

- 研究発表だけではなく、日本語で行われる**市民向けの公開講座を開催するなど、市民をうまく巻き込んで開催。**
- 実行委員会は市民グループ、市内各種団体、大学・研究機関、市職員などで構成。**市が事務局。
- 国内外の研究者に対する誘致は、実行委員長(道立オホーツク流氷科学センター所長)と北海道大学が中心となっており、参加者を確保。
- 紋別市が毎年補助金を支出し、安定した開催に寄与。

地元への波及効果

- 本シンポジウムによる**集客に伴う経済効果。**
- 流氷に対する市民の見方の変化。(やっかいものから豊かな海をもたらす資源へと意識変化)**
- 極域の研究者に対する国際的な知名度の向上。

9 アドベンチャートラベル・ワールドサミットを通じた 外国人観光客の誘客



アドベンチャートラベル(AT)とは

- 「**アクティビティ**」「**自然**」「**異文化体験**」の3つのうち、**2つ以上**で構成される旅行。
- アクティビティを通じて自然体験や異文化体験を行い、地域の人々と触れ合いながら、その土地の**自然と文化をより深く**知ることで、自分の内面が**変わっていくような旅行**。
- 世界**市場規模は70兆円**を超えと言われており、旅行者一人当たりの消費額が大きく、**ポストコロナ時代**において、**需要拡大**が期待。



北海道のポテンシャル

四季を通じて楽しめるATコンテンツ

- 世界自然遺産の知床など「**美しく雄大な自然**」「**豊かな食**」
- アイヌ文化**や世界文化遺産に登録された**縄文遺跡群**といった「**北海道独自の文化**」
- サイクリング**や**カヌー**、**スキー**といった「**多様なアクティビティ**」



★アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道・日本(ATWS2023)★

- アドベンチャートラベル・トレードアソシエーション(ATTA)が主催する**世界最大のATイベント**
- 約60カ国**から旅行会社やメディア、ツアーオペレーター、アウトドアメーカー、政府観光局、観光協会、DMOなど**約800人が参加**
- 期間中にATツアー体験や講演会、セミナー、商談会等を実施
 - ・大会前行われる4泊程度のAT体験ツアー(道内15コース、道外7コース)
 - ・大会初日に行われる札幌市を起点とした日帰りAT体験ツアー(道内31コース)
 - ・大会2~4日目の各種講演会、セミナー、商談会等(札幌コンベンションセンター)
 - ・大会終了後にも、ツアーと商談会をセットにした招聘事業を実施(道内4地域)

【概要】

- 日程 2023年9月11日(月)~14日(木)
- 主会場 札幌コンベンションセンター
- 参加者 約60カ国800人(昨年開催したスイスの例)

➡ **アジア初のATWS開催を通じ、外国人観光客の誘客を促進**

**国際会議等の北海道開催の推進について
各省庁の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。**

【お問い合わせ先】

**〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目
北海道総合政策部国際局国際課国際企画係
TEL:011-231-4111(内線:21-234)
FAX:011-232-4303**